

## ➤ 16日 火曜

### 列王 I

7:1 また、ソロモンは十三年をかけて自分の宮殿を建て、その宮殿のすべてを完成させた。

7:2 彼は「レバノンの森の宮殿」を建てた。その長さは百キュビト、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトで、それは四列の杉材の柱の上にあり、その柱の上には杉材の梁があった。

7:3 また、四十五本の柱の上にある階段式脇間の屋根は、杉材で葺かれていた。柱は一列に十五本ずつあった。

7:4 戸口は三列あり、三段になって向かい合っていた。

7:5 戸口の扉と戸口の柱はすべて四角形で、三段になって向かい合っていた。

7:6 また彼は、柱の広間を造った。その長さは五十キュビト、その幅は三十キュビトであった。その前に玄関があり、その前に柱とひさしがあった。

7:7 また、さばきをするための王座の広間、すなわち、さばきの広間を造り、床の隅々から天井まで杉材を張り詰めた。

7:8 彼の住む家はその広間のうしろの庭にあり、同じ造りであった。ソロモンは、彼が妻としたファラオの娘のためにも、この広間と同じような家を建てた。

7:9 これらはすべて内側も外側も、のこぎりで寸法どおりに切りそろえられた、高価な石で造られていた。礎から軒に至るまで、さらに外庭から大庭に至るまで、そうであった。

7:10 礎は高価な石、大きな石で、八キュビトも十キュビトもあった。

7:11 その上には、寸法どおりに切りそろえら

れた高価な石と杉材が使われた。

7:12 大庭の周囲には、三段の切り石と一段の杉の角材が使われ、【主】の宮の内庭や、神殿の玄関広間と同じであった。

7:13 ソロモンは人を遣わして、ツロからヒラムを呼んで来た。

7:14 彼はナフタリ部族のやもめの子であった。彼の父はツロの人で、青銅の細工師であった。ヒラムは青銅の細工物全般について、知恵と英知と知識に満ちていた。彼はソロモン王のもとに来て、その一切の細工を行った。

7:15 彼は青銅で二本の柱を鑄造した。片方の柱の高さは十八キュビト。もう片方の柱の周囲は、ひもで測って十二キュビトであった。

7:16 彼は青銅で鑄造した二つの柱頭を作って、柱の頂に載せた。片方の柱頭の高さは五キュビト、もう片方の柱頭の高さも五キュビトであった。

7:17 柱の頂の柱頭に取り付ける、鎖で編んで房になった格子細工の網を、片方の柱頭に七つ、もう片方の柱頭に七つ作った。

7:18 こうして彼は柱を作り、柱の頂にある柱頭をおおうため、青銅のざくろが格子網の上を二段に取り巻くようにし、もう片方の柱頭にも同じようにした。

7:19 この玄関広間にある柱の頂にある柱頭は、ゆりの花の細工で、それは四キュビトであった。

7:20 二本の柱の上にある柱頭の格子網のあたりで、丸い突出部の周りには、二百個のざくろが、両方の柱頭に段をなして並んでいた。

7:21 この柱を本殿の玄関広間の前に立てた。



彼は右側に立てた柱にヤキンという名をつけ、左側に立てた柱にボアズという名をつけた。

7:22 この柱の頂の上には、ゆりの花の細工があった。こうして、柱の造作は完成した。

12節までは王宮の建設です。縦横80mと40mというのは神殿よりも大きく、「さばきの広間」など政治的な機能があるにせよ、神様を第一にすべきでした。彼の信仰1本でない生き方が、後にイスラエルに偶像を招いたのです。主のために最良のものをささげましょう。

ヒラムは王のヒラムとは別人です。父が異邦人ではありましたが、主に用いられました。統治や伝統よりも、主を第一にすべきです。それとともに、やがてソロモンが異邦の宗教を入れてしまったことも忘れてはなりません。主のみこころを第一として、伝統よりも主のためを第一としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

